

2 - 4 岩手県沖の地震活動について

Seismic Activity off Iwate Prefecture

気象庁 地震課, 地震活動検測センター

大野 栄 寿

Eiju Ono

SAMC, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

第1図は東北日本太平洋側の歴史的な大地震とその余震域の分布を示し、第2図は同地域の津波の波源域の分布を示したものであるが(羽鳥による)、これらの分布からみると、岩手県沖は歴史的には大地震の発生しにくい地域となっている。また、第3図は宮古における1890年以後の有感地震回数の変動を表わしたものであるが、宮古では1896年の三陸沖地震以後は10年近くも顕著な地震活動が続いたのに比べると、1933年の三陸沖地震の際は、震源が異なることもあるが有感地震が少ない。

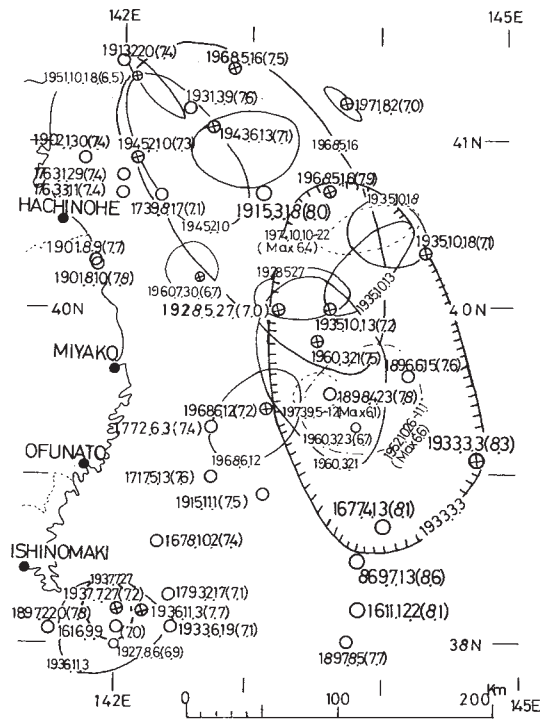
最近の49年間に気象庁が震源決定した三陸沿岸ならびに沖合の震央分布図は第4図であり、これからも岩手県沖は周辺に比べて大きな規模の地震は起っていない。ただ東北大学による微小地震観測によると、この地域では逆に微小地震が数多く発生しているようである。

このように岩手県沖は巨大地震の空白域であるが、もともと巨大地震が起こらない地帯であるのか、それともいつの日にか起こる歪エネルギーの蓄積状態であるかは不明であるが、同地域を通る地震源の V_p / V_s の変化を調べると第5図となり、これからは特別の変化は観測されなかった。

参 考 文 献

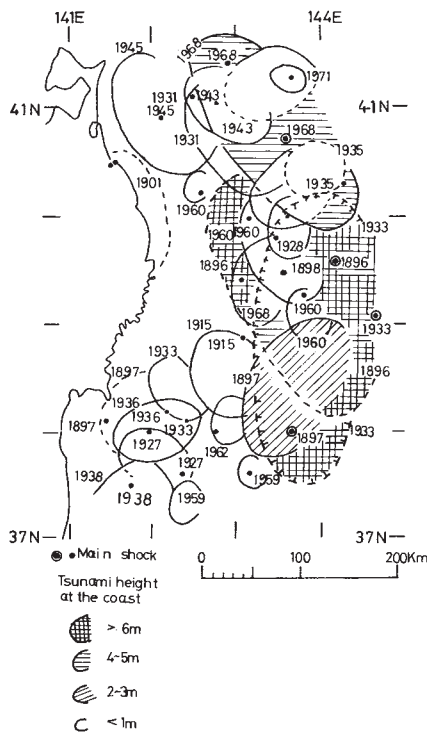
羽鳥徳太郎(1974): 東北日本太平洋側における津波の波源, 地震II, 27, 321 - 337

東北大学: 東北地方の微小地震活動, 地震予知連絡会会報, 8, 9, 10, 11, 12, 13 および15巻。



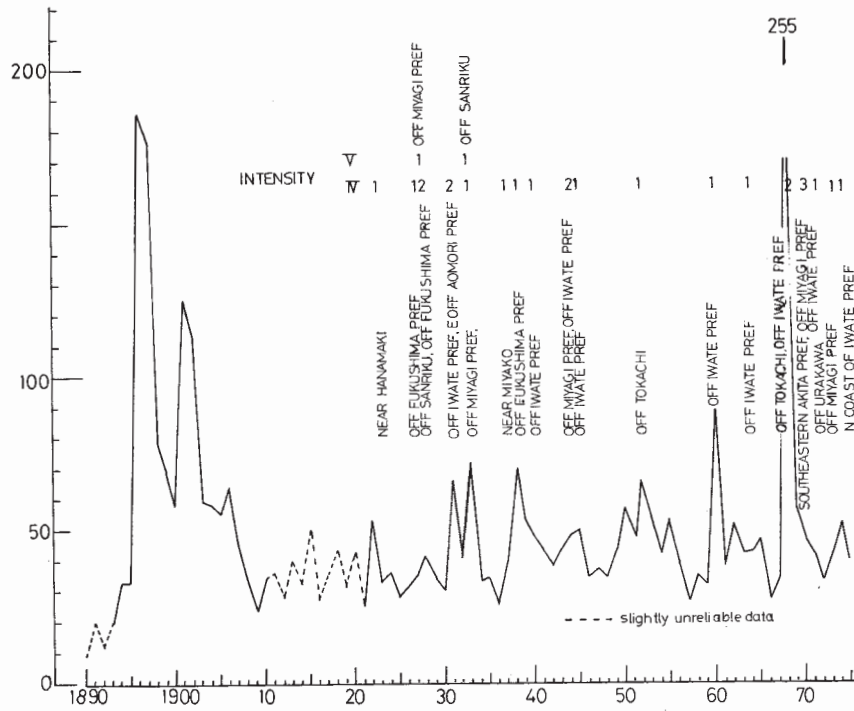
第1図 大地震とその余震域

Fig. 1 Large earthquakes and their aftershock areas.



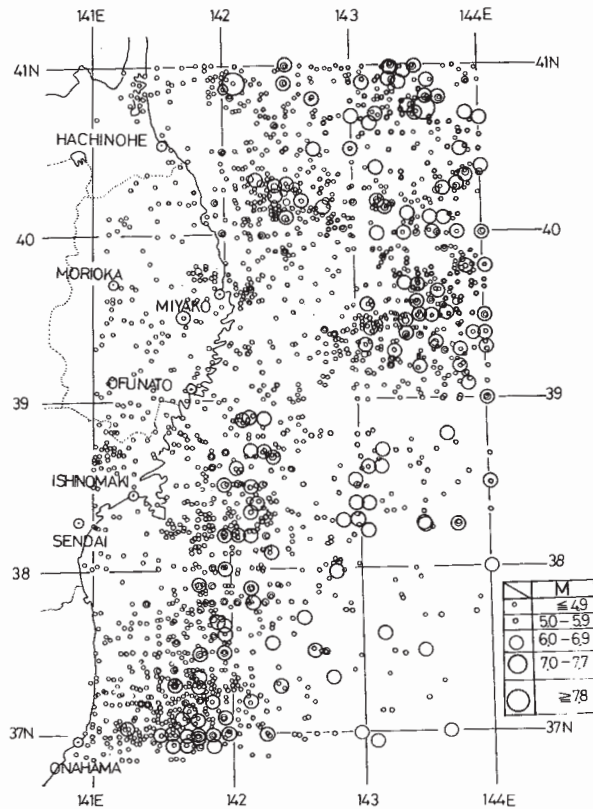
第2図 東北日本太平洋側における津波の波源（羽鳥による）

Fig. 2 Tsunami sources on the Pacific side in northeast Japan. (after T. Hatori)



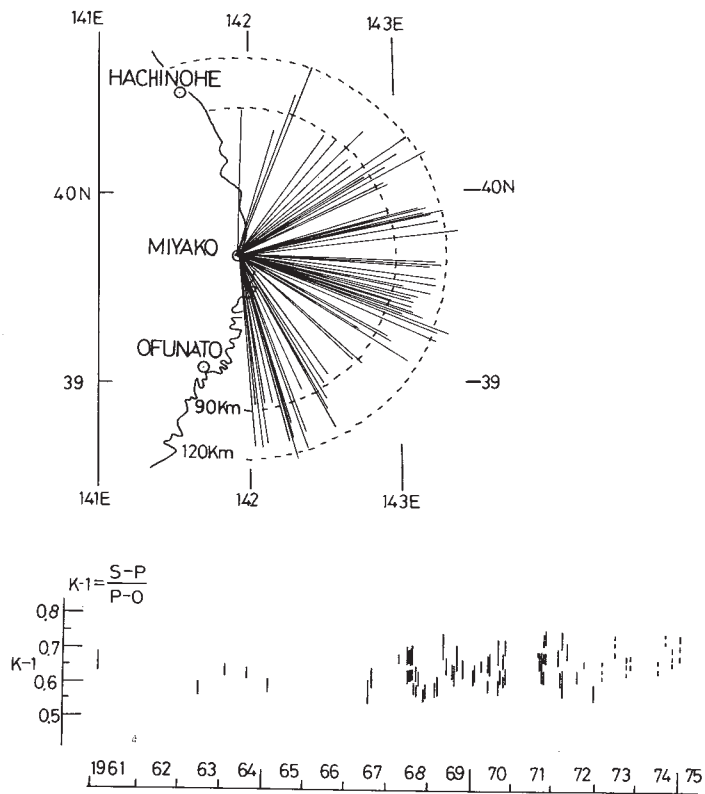
第3図 宮古有感地震回数(年)

Fig. 3 Yearly number of felt earthquakes at Miyako.



第4図 震央分布図(1926~1974)

Fig. 4 Distribution of epicenters (1926 - 1974)



第5図 宮古における V_p / V_s の変化

Fig. 5 Change of V_p / V_s at Miyako.